

第13回 千葉大学予防医学センター市民講座

「子どもの環境健康と環境化学物質の脳神経系への影響」



私たちの身の回りには、濃度によっては健康への悪影響を生じさせるものが多くあります。中には、胎児期に母親が摂取することにより胎児の脳神経に悪影響を与える物質も報告されています。今回の市民講座では、環境化学物質の胎児の脳神経系への影響について長年研究してこられた、

財団法人東京都医学総合研究所の木村・黒田純子先生のお話を伺います。また、千葉大学予防医学センターの森千里センター長より、明治時代に国民病と言われた脚気を予防するために「脚気病調査会」を設立して国の対策を先導した森鷗外の足跡についてお話しします。

- 日 時：平成 25 年 2 月 2 日（土） 13:30 開場 14:00 開演
会 場：千葉大学 柏の葉キャンパス（千葉県柏市柏の葉 6-2-1）
テーマ棟 2F ケミレス教室
参 加 費：無料
定 員：50 名
申込方法：事前申し込み不要
主 催：千葉大学予防医学センター
共 催：NPO 次世代環境健康学センター

プログラム

13:30	開場
14:00	開会のあいさつ（千葉大学予防医学センター長：森千里）
14:15	明治時代の予防医学「脚気」撲滅への道（森千里）
15:00	環境化学物質の脳神経系への影響（木村・黒田 純子）
16:00	質疑応答
16:30	閉会のあいさつ（森千里）

＜講師紹介＞

木村・黒田 純子：

公益財団法人東京都医学総合研究所、脳発達・神経再生研究分野、神経回路形成プロジェクト担当。長年、PCB など環境化学物質の脳神経への影響を研究。現在は新農薬ネオニコチノイドの問題に取り組む。

森 千里：

千葉大学予防医学センター長。千葉大学大学院医学研究院教授。医師。環境汚染物質と人の健康影響について研究。森鷗外の曾孫にあたる。

